

令和3年10月4日

令和3年度第5回世界農業遺産等専門家会議
大分県国東半島宇佐地域における更なる保全・活用に向けた助言

- 1 本地域の積極的な情報発信や高校生による聞き書き等による教育活動は、大変評価できる。特に、聞き書きは、伝統的知識で市民と科学を結び付ける重要な手段になり得ると世界的にも注目されている。今後も次世代教育と併せ、世界農業遺産を社会に浸透させる取組が行われることを期待している。
- 2 原木しいたけの生産量や森林面積等が減少しているため、担い手確保や新たな需要を創出する取組を強化するなど、くぬぎ林の萌芽更新やため池の維持管理も含めた農林業の循環システムを将来に残す取組をより一層強化していただきたい。
- 3 原木しいたけや七島藪の生産量を増やすためには、時代に合わせた需要の創出が重要である。例えば、これらの生産を支えるくぬぎ林において、希少な生物や植物の存在を調査し、その結果を基にしたストーリーを形成し、エシカルな消費に繋げるなど、付加価値を創出するための取組も検討されたい。
- 4 本地域では、狭い谷が放射状に延びる限られた土地の中で農林水産業システムが行われているが、本システムを観光客や小学生等に説明する際には、本システムをわかりやすく説明できる地区等があると良い。農林水産業システムを包括的かつコンパクトに表している地区等を調査・検証し、観光客や小学生等への対外的な説明に活用されたい。また、本地域は、姫島も構成地域であるため、沿岸域の営みと自然の関わりについても、改めて検証されたい。

(以上)